

# 第一章

## グループの芽生え

(豊田佐吉の立志から豊田綱領制定まで)

## Chapter 1

# Roots of Toyota Group

(From Sakichi Toyoda's resolve to establishment of the Toyoda Precepts)

明治維新以降、繊維産業が日本の近代化を支えてきました。明治の初期、糸づくりの機械はすでに動力化が進んでいましたが、布づくりは旧来のまま、手織りで作業を行っていました。トヨタグループの創始者 豊田佐吉は、布づくりの機械も動力化を進めればさらに産業が発展し、人々の暮らしも豊かになると考え、動力織機の発明に力を尽くします。その後、佐吉の志を具現化するいくつかの繊維事業会社が立ち上がり、佐吉の逝去後も、その遺訓をまとめた「豊田綱領」のもと、結束を強めています。

After the Meiji Restoration, the textile industry supported the modernization of Japan. In those days, mechanization had already advanced for yarn spinning, but cloth making was still conducted manually. Sakichi Toyoda believed the mechanization of weaving machine was necessary for “making the country prosperous and the people happy,” and therefore he took it upon himself to invent a power loom. In time several textile firms were established for realizing Sakichi's aspiration, and they gradually strengthened their union under the “Toyoda Precepts (Five Main Principles of Toyoda),” which summarized Sakichi's teachings.

19世紀終盤から20世紀前半、日本にとって、アジア地域への経済的進出の時代でもありました。

当時、繊維産業は日本の主力製造業のひとつでした。国産の紡織機がやがて欧米の機械の性能を凌駕するようになり、糸・布の生産量も拡大していきました。

1915年頃、空前の好景気が到来しますが、その後、株価一斉暴落や関東大震災などの苦難の時代を迎えることになります。

1867年 薩摩藩鹿児島紡績所竣工(国内初の洋式紡績工場)

1873年 臥雲辰蔵、ガウ紡機発明

1881年 愛知紡績所開業(国内初の官営洋式紡績所)

1882年 大阪紡績会社設立(現:東洋紡、国内初の民間紡績所)

1885年 専売特許条例公布

1892年 松田繁次郎、足踏み織機の特許取得

1894年 日清戦争勃発(～1895年4月)

1897年 津田米次郎、動力織機を試作

1901年 八幡製鐵所創業

1904年 日露戦争勃発(～1905年9月)

1905年 ポーツマス条約(日露戦争の講和条約)締結

1906年 南満洲鉄道設立

1909年 鈴木式織機製作所(現 スズキ(株))設立

1914年 第一次世界大戦勃発(～1918年11月)

1918年 軍需工業勸励法・軍用自動車補助法

1920年 株式一斉暴落、大戦後の反動恐慌

1923年 関東大震災

1927年 金融恐慌始まる

1931年 満州事変始まる

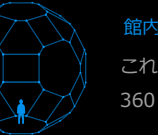
1933年 日本、国際連盟を脱退

1937年 日中戦争勃発

館内企画展アーカイブ

# バーチャル展示室

THE VIRTUAL  
EXHIBITION ROOM 360



館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** › <https://www.tcm.it.org/360virtual/>

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介しますデジタルアーカイブです。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。



**トヨタ産業技術記念館**

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.